

平成 29 年度 勝山市地方創生総合戦略及び地方創生交付金等事業 における外部評価結果について

1 評価の実施について

地方創生の推進にあたっては、国から、効果的な PDCA サイクルの構築により地方創生総合戦略自体とそれに係る交付金等事業の効果検証を行うこととされている。

本市においては、勝山市地方創生総合戦略と市が採択を受けた地方創生交付金等事業に係る平成 29 年度の事業進捗状況について、外部有識者により構成された「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」による外部評価を実施した。

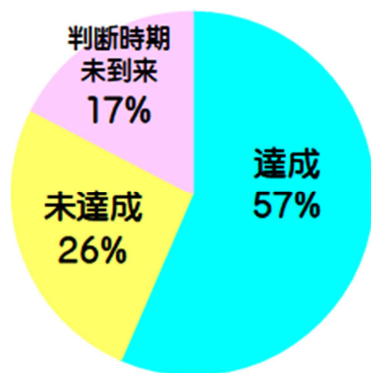
2 評価基準

(1) 内部評価

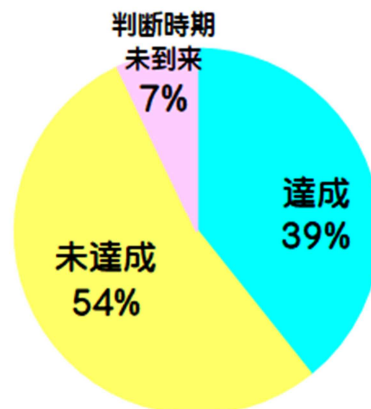
勝山市地方創生総合戦略及び地方創生交付金等事業の重要業績評価指標（KPI）の評価結果について

- ① 勝山市地方創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（23 項目）
 - ② 地方創生交付金等事業の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（28 項目）
- ※目標値に対する実績結果により「達成」、「未達成」、「判断時期未到来」を判定

① 勝山市地方創生総合戦略
の KPI 評価結果



② 地方創生交付金等事業
の KPI 評価結果



(2) 外部評価

外部評価は、本市が平成 29 年度に取り組んだ地方創生に資する各事業とその結果である重要業績評価指標（KPI）について、産官学金労言の代表者により構成された「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」が客観的に評価を行ったものである。

評価にあたっては、効果検証調書（資料 1・資料 2）を参考に事務局からの説明の後、有識者目線による効果検証を行なった。

委員から提出された各事業や重要業績評価指標（KPI）に対する多数の意見を資料の「委員の意見欄」に記載し、今後の政策推進の参考とする。

勝山市地方創生総合戦略 平成29年度効果検証調書

資料1

No	担当課	担当課	頁
重点戦略 1	ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高め、定住化を促進する	ふるさと創生・移住課 ジオパークまちづくり課 農業政策課 未来創造課	1
重点戦略 2	勝山市の地域資源をさらに磨き、U・Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる	観光政策課 商工振興課 農業政策課 林業振興課 ジオパークまちづくり課	3
重点戦略 3	縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる	健康長寿課 福祉・児童課 学校教育課 未来創造課	5
重点戦略 4	豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る	健康長寿課 市民課 観光政策課 総務課 建設課 ジオパークまちづくり課 未来創造課	7

重点戦略1 ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	転入者人口(人)	目標値	—	427	431	435	439	443	未達成	●目標の達成には届いていないものの、着実に近づいており、今後に期待が持てる。ただし、このような場合に、転出者の実績も記載し、実質的な議論につなげてほしい。 ●転入者数を増加させることは難しく、まずは転出者の食い止めに取り組むことを優先させるべきではないか。 ●今後、事業所における就業者の転入状況の増減についても示してほしい。
		実績値	423	433	420	411				
2	うち市の支援を受けて転入した人の数(人) ※H27～H31累計	目標値	—	3	4	12	16	20	達成	●「支援を受けて転入した人」の定義を具体的に示してほしい。
		実績値	3	3	10	61				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成29年度)	課題と対応策(平成30年度以降)	委員の意見
1	ふるさと勝山への移住・定住促進に関する情報発信の強化	ふるさと創生・移住課	新たなポスター・パンフレット・マップ・動画の製作を行うとともに、全てのコンテンツのキャッチコピーなどイメージを統一した。(従来はバラバラに製作していたため、統一性がなかったことから、参加するフェア等での自治体の印象度アップを狙い実施)	移住・定住に関する情報発信以前に、まずは、勝山市としてのシティプロモーションが重要であると考えている。知らない土地に移住はしないということと、ふるさとに戻る場合においても、魅力的なまちづくりが必要であり、長期的な対策として、今後、地域おこし協力隊の協力のもと「住む・遊ぶ・働く」をパッケージ化した新たなPR対策を講じる。	●「住む・遊ぶ・働く」をパッケージ化した新たなPR対策を講じるとあるが、いずれも大切なことであり、ぜひとも優先順位をつけつつ、勝山らしい魅力を全国にPRしてもらいたい。 ●効果を上げるためには内容の充実が不可欠であるが、全国に大きなインパクトを与える発信を行うことも必要であると思う。 ●パッケージ化は重要である。「育てる」項目にも取り組んでほしい。 ●ポスターやパンフレット、動画等の設置・上映場所について、金融機関を活用してもらってよい。情報発信という分野で効果を発揮できるのではないかと。 ●まず、地域おこし協力隊に定住いただけるような支援が必要ではないか。そのためには特に、起業支援策が有効であると思われる。
2	U・Iターン者の住まいや仕事探しに向けた支援の強化	ふるさと創生・移住課	ふるさと勝山移住定住促進事業として、移住者へ家賃助成等の支援を行ったほか、近隣市町で働く方のためには、市外通勤助成を実施。(家賃助成：12件 1,470千円 市外通勤：2件 34千円 引越費用：5件 335千円) また、地方創生交付金を活用し、市内企業の求人を支援するための情報発信ツール(新たな企業紹介冊子やHP)の作成にとりかかった。	市内には住宅手当交付の企業が少なく、家賃負担を軽減する助成申請が非常に多い。ただ、助成金がインセンティブとなって転入する例はまれで、今後制度の見直しが必要と考える。市内企業の求人支援については、事業への参加企業の増加と魅力的な情報発信に努めていく。	●空き家情報など民間事業者との連携や、地方でも取り組むことのできるIT等の情報発信事業にも力を入れていただきたい。 ●日本の人口が減少し、国策においても外国人労働者をより多く迎えるようとしているなかで、このような施策の効果は地理的・経済的・財政的に類似の自治体と比較することにより、その効果を問うべきではないか。 ●企業向け情報誌の内容は非常に良く、単年での事業終了は避けてほしい。 ●雇用の創出が不可欠であり、市内企業との連携は必須。 ●企業紹介冊子は好評であり、参加企業のさらなる増加に努めてほしい。 ●勝山市には賃貸物件が少ないとのことであり、空き家の有効活用策を講じるとよいのではないかと。
3	勝山暮らし・田舎暮らし体験の充実	ふるさと創生・移住課 農業政策課	○お試し移住体験施設は、全国的に同様のものが増加しているが、現在も一定の利用者がある。(H29:7団体、54泊61日)ただし、移住に直接結びつく例がなく、補助金の終了とともに見直しを検討する。また、県内4市町(勝山、鯖江、越前、美浜)の中で唯一2回の体験ツアー(1泊2日)と1回のロングステイ(7日間)を実施できた。今後は、魅力的なコンテンツの見せ方が重要となってくる。 ○1日～数日間、農家に宿泊しながら農作業等の田舎暮らしを経験する「田舎暮らし体験事業」においては、累計体験人数が目標値を上回り、着実に事業が定着してきた。	○昨今、交流人口を関係人口に、関係人口を定住人口という段階の重要性が取りざたされている。まずは勝山を知ってもらい、それにあわせて、魅力を十分に伝えるコンテンツのブラッシュアップを図るよう努めていきたい。 ○田舎暮らし体験については、主に5つの体験メニューがあるが、人気のある体験メニューとそうでない体験メニューに差がでてきた。引き続き、受入農家数を増やししながら、魅力ある体験メニューを開発し、申込者の選択肢を広げる。	●とりわけ女性の参画が見込まれる企画が課題ではないか。 ●田舎暮らし体験の取組み自体は、参加者も多く、効果が上がっているようだが、その方々の定住につながっているのか。他のU・Iターン施策もからめて、体験者の移住・定住につなげてほしい。 ●上庄地区では、サトイモ掘りの時期に「猫の手応援隊」を募集し、多数の参加者がいる。取り組む作業の明確化を図っては。 ●移住に結びつく事業と人気のある体験事業メニューとは違ってくるように思う。魅力ある体験メニューが「交流人口⇒関係人口⇒定住人口」どうつながるのか示してほしい。 ●どの地域においても田舎暮らし体験は行われている。体験メニューをたくさん作成することより、差別化を図り、勝山でしか経験できない体験メニューの開発に取り組んでほしい。 ●移住者の新規就農に係る支援策の拡充を検討してほしい。

4	U・Iターンの促進に向けたインセンティブの強化	ふるさと創生・移住課	U・Iターンの促進による地方創生の実現に向け、ふるさと創生・移住課を新設し、補助金制度の拡大等を図った。(上述のとおり) これにより、市の窓口を活用して移住してくる人数は一気に増加した。(～H28:10名、H29:51名)ただし、補助メニューの多くがIターン者向けのものであることを受け、Uターン者向けの新たな補助メニューの創設を検討した。	市の補助制度の活用は年々、増加傾向にあるものの、活用されるものとあまり活用されないものとの差が明確になりつつある。 概ね3年程度の期間で事業を実施し、平成31年度以降、さらにU・Iターンの促進につながるインセンティブとなるものについて、補助金だけに捉われず検討を進める。また、活用されない補助制度については、どこが活用に結びつかないのかも含め、検討・改正を重ねていく。	●中長期的に、勝山市による単独事業にすべきものも見据え、補助制度のうち活用されるもの、活用されないものの具体的な要因を研究する必要があるのではないか。 ●年々高齢化する獣害対策者(猟師や獣肉流通)に精通するコアな人材の育成に取り組んでいただきたい。 ●インセンティブについては、何を必要としているのか実際のU・Iターン者にヒアリングすることも必要であると思う。 ●転入者だけでなく、転出者向けのアプローチも不可欠である。
5	地場産業への理解を通じた定住促進	ふるさと創生・移住課	勝山市は、歴史の中で育まれた繊維研究の拠点のまちとしての一面があり、現在も新たな繊維製品を開発し、大手企業等へ提供している。そういった側面はあまり知られておらず、製造業としての認識が強いために、若年層には市内企業の魅力が伝わっていない。このような魅力をわかりやすく伝える情報発信戦略を検討した。	検討結果を踏まえ、新たに作成する企業紹介冊子(全戸・地元高校生配布)やホームページを用いて、情報発信力を強化する。 さらに、企業情報の紹介パンフレットの内容を検討や新たなインターンシップ事業の実施を通じて、市内企業の魅力の見せ方を企業とともに研究する。	●可能であれば、推進員のような方々を配置して、生の声で地元(企業等)のPRを学校で行うことができると思う。 ●若年層自身に情報発信を行ってもらう取組みの実施はどうか。 ●小中学生に対する地場産業の教育が必要である。 ●繊維研究都市としての一面を、より派手にPRすることも効果があるのではないか。 ●地場産業の継承者育成をセットで推進すべきではないか。
6	若い世代の流出抑止に向けた専門学校等の誘致	未来創造課	○インターンシップや協定大学の教授を招いた連携アカデミーの実施(2事業) ○GAZOO RACING等の各イベントにおけるボランティア協力等の連携 ○福井県立大学と連携ソーシャルワーク実習受入等 ○勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員派遣など市の設置する各委員会の委員としての協力・助言。 ○地方創生交付金を活用し、都市圏大学と連携したふるさと動画作成事業の実施を検討。	継続的にインターンシップや講義の講師依頼、各種審議会等への委員参画を実施するなかで大学等との連携を深める。さらに、新たな取組みとして都市圏の大学生と連携したふるさと動画の作成事業について計画的に実施していく。 高度な教育機関という面を活かした行政課題の解決や共同研究等に係る取組みは未だ少ないことから、特に各大学と、その実現に向けた具体的な検討を行う。その中で、誘致に向けた可能性を模索する。	●専門学校等の誘致を進めるのであれば、勝山市に来ることでの相手側のメリットを十分示すべきである。 ●県内・県外大学のゼミと連携し、市の課題解決を研究テーマとしたフィールドワークを実施するなかで、解決策として実現性や効果が高いものを市の目玉施策として取り組んではどうか。 ●県内には学生による施策提案型のコンテストを行っている市町もあり、検討してほしい。
7	国の機関や県等と連携した事業展開	ふるさと創生・移住課	国や県の補助金を活用した事業に多数取り組むことにより、市の財政の圧迫を避けることができることから、活用する事業数は年々増加している。 平成29年度においては、県のロングステイ事業や新ふるさと創造推進事業、国の地方創生交付金事業を活用するなかで、上述の各種事業に取り組んだ。	国、県の補助事業には、都市部の企業と連携を図っているものもあり、一部一過性の取組みに思えるものもある。そういった事業を十分精査し、勝山市の魅力発信、地域経済の発展に結びつく補助については、積極的な活用を図っていく。	●「U・Iターンの促進に向けたインセンティブの強化」等との連携により効率的に運営することも必要ではないか。
8	魅力ある定住先としてのジオパークの魅力発信	ジオパークまちづくり課	まちづくり団体等の独自の視点による、地域資源の保護・保全事業や様々なジオツアー・イベント等の開催により、市内外に対し、ジオパークの魅力発信につながった。さらに、13回にも及ぶジオガイド養成講座の開催により、ガイドの質や意識が向上し、様々なツアー等の魅力の担保となっている。また、市内小中学生に対し、自分たちで考え、発信していく能動的なジオパーク教育を行うことで、勝山市の魅力の再発見や地域アイデンティティなどが醸成されてきた。 ・市民による主体的なまちづくり活動への助成研修 16事業 ・市内小中学校を対象としたジオパーク学習の実施 36回 ・自然体験学習等の実施 参加者数 1,487人 ・ガイド養成講座参加者数 30人	勝山市観光まちづくり株式会社をはじめ、各種団体によるツアーやイベントの開催にあたっては、地域の民間事業者やガイドボランティアとの密接な連携を図り、地域全体の経済の発展につなげる。 引き続き、小中学生に対するジオパーク学習の継続を行うとともに、これまでとは逆に子どもから大人へとジオパークの魅力が自然に伝わるような仕掛けづくりに取り組む。 地域の魅力をより一層伝えることのできるガイドの育成を図るとともに、ガイドをシンプルに分かりやすく依頼できるシステムの構築に取り組む。	●「ジオパーク」という言葉の意味合いが言葉からだけでは想像しにくい。取り組んでいる各種事業においてはその点のフォローをしっかりと踏まえたうえで実施すべきと考える。 ●一部の組織や民間企業が積極的に活動し、情報発信しているのは分かるが、市民レベルでの活動は不足していると感じる。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度(基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度(目標値)	達成度	委員の意見
1	田舎暮らし体験者数(人) ※H27～H31累計	目標値	—	100	200	300	400	500	達成	●数値が伸びていることはすばらしいが、体験者に対するフォローアップを強化し、移住等の成果にいかにつなげていくかが重要課題である。
		実績値	98	198	380	561				
2	市内企業説明会に参加した勝山市の高校生的人数(人)	目標値	—	42	44	46	48	50	未達成	●高校生がどんな企業への就職を望み、企業説明会ではどんな話を聞きたいと思っているのかが重要課題である。
		実績値	38	38	40	39				
3	U・Iターンに関して国や県と連携して行った事業数(件) ※H27～H32累計	目標値	—	1	2	3	4	5	達成	●連携事業のうち、しやすいものとしにくいものを吟味し、スクラップやビルドを行うなかで、ブラッシュアップしていくべき。
		実績値	—	2	5	9				

重点戦略2 勝山市の地域資源をさらに磨き、U・Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	観光入込客数(万人)	目標値	—	175	180	186	193	200	達成	●数値だけでなく、世代や地域等の傾向を分析することも不可欠である。
		実績値	171	203	199.5	217.6				
2	観光消費額(億円)	目標値	—	28	29	30	32	34	達成	●数値だけでなく、世代や地域等の傾向を分析することも不可欠である。 ●取組み内容が着実に成果につながってきているのだと思う。継続的な取組みに期待する。 ●より掘り下げて、市内で作られた土産品等の消費額を向上させることも必要である。
		実績値	27	27.67	32.5	47.73				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成29年度)	課題と対応策(平成30年度以降)	委員の意見
1	観光まちづくりを進めるDMOの形成	観光政策課	平成28年6月に勝山市観光まちづくり株式会社が設立され、平成29年度より日本版DMO候補法人として本格的な取組みを開始。4月からはリノベーションされた旧料亭花月楼での食事提供が始まり、まちなか誘客の核として運用している。 【H29実績】 旬祭食祭花月楼の年間売上：31,939千円	平成30年4月より恐竜博物館前の「勝山市ジオターミナル」の営業が開始される。内部に設ける観光コンシェルジュ機能等をフル活用して、恐竜博物館を訪れた観光客をまちなかに送客し、観光消費額の増加を目指す。また、造成した観光ツアーや魅力的な市内スポットを大都市圏で売り込み、集客を促進する。	●花月楼は正直なところ、賑わっていると感じられない。今後のテコ入れ対策を示しながら取り組んでほしい。 ●次回の外部評価時には、ジオターミナルの部門別の売上げを示してほしい。 ●恐竜博物館を訪れた観光客をまちなかに誘客したいのであれば、まちなかにも恐竜を関連付けする必要があるのではないかと。
2	勝山市の地域資源を活かした観光・交流拠点の整備	観光政策課	平成29年4月より旧料亭花月楼でのランチ提供が開始され、まちなか観光の核としての運用が開始された。また、恐竜博物館前の駐車場に飲食・物販と観光交流機能を持つ新たな施設「ジオターミナル」の建設準備を進めた。	新たにジオターミナルの営業が開始され、恐竜博物館を訪れた観光客に対する飲食・物販の提供を行う。まちなかへの送客増大や平成32年に供用開始を予定する道の駅のソフト・ハード両面の充実に向け、観光まちづくり株式会社と協議・連携し、対応を進める。	●検討はしていると思うが飲食や物販に関し、観光地として選択と集中を図り、「福井県の勝山」ならではのものを提供してもらいたい。全国のどこへ行ってもよく似た物が売られている印象が強い。
3	観光における他市町との連携	観光政策課	○平成28年度に策定した周遊・滞在型観光推進エリア創出計画に基づき、大野市・永平寺町と連携したエリア親子体験ツアーや白山平泉寺1300年開山事業を展開した。 ○広域組織「越前加賀インバウンド推進機構」において、各市町と連携した出向宣伝や海外メディア・旅行エージェントの招聘による営業活動等を実施した。 ○勝山市を中心にえちぜん鉄道沿線4市町や市内企業、金融機関、マスコミが連携して映画「えちてつ物語」を製作。	○効果があまり得られないが、付き合いで加盟しているような広域組織等については脱会を進めており、今後も同様の方針で効率的な組織参画を図る。 ○各市町との連携事業は観光客数やインバウンドの増加に効果を発揮しており、新たな周遊の体験ツアー造成やインバウンド観光の推進に引き続き取り組むとともに、完成した映画「えちてつ物語」をシティプロモーションの重要なツールとして都市圏でのPR活動等に活用する。	●部分的な連携でなく、総合的な連携策を模索してほしい。 ●効果の上がらない連携事業は、離脱することも必要だと思う。 ●大野市・永平寺町ともに魅力的な観光資源に恵まれており、連携内容をしっかり精査してほしい。 ●恐竜博物館は世界に誇る博物館であり、勝山市だけでなく県全体の誇りである。単体の観光戦略にとどまらず、嶺北一円の観光ラインを一層強化すべきである。 ●PR動画「WhiteHealing」はよくできている。短編に動画編集し、CM等に活用するとよいのではないかと。
4	インバウンド観光の促進	観光政策課	平成28年に設立された「越前加賀インバウンド推進機構」を中心に、地方創生推進交付金を活用したインバウンド観光推進事業を実施。 ※事業の詳細は、資料2「地方創生交付金 効果検証調査」観光政策課 事業No2・3のとおり	インバウンド対応が遅れており、認知度も低い現状より、海外でのセールスコール・商談会を行うとともに、海外メディアの招聘など情報発信を進める。 ※事業の詳細は、資料2「地方創生交付金 効果検証調査」観光政策課 事業No2・3のとおり	●一律でなく、国ごとの特徴を踏まえたうえでの戦略が必要である。 ●ターゲットを絞りつつ、海外メディアを招聘し、日本酒や繊維、恐竜といったコンテンツをPRするのはおもしろいのではないかと。 ●インバウンドの推進にあたり、語学の得意な主婦層や学生は意外と大勢いるのではないかと。県通訳協会と連携してみてもどうか。 ●初めて日本を訪れる外国人旅行者の訪問先は大都市圏が中心である。地方へ足を向ける旅行者は日本慣れしたリピーターが中心であり、勝山市は後者へのアプローチが求められる。 ●日本の生活文化等を体験することができる着地型観光メニューの開発が必要ではないかと。その中でも特に、勝山に触れる場面を設け、勝山の良さを知ってもらいたい。

5	観光の産業化に向けた特産品・土産品開発と新たな勝山ブランドの創造	商工振興課 農業政策課	勝山市おもてなし商品開発等支援事業の実施。 ①「恐竜ようかん」の開発 勝山菓子組合に加盟する菓子店の共同企画で、恐竜をテーマにしたようかん。新たに県立恐竜博物館前にオープンした飲食物販施設「ジオターミナル」と菓子組合加盟店舗で販売。福井国体ではおもてなし商品として、来場者にふるまった。今後は、パッケージの改良等も考え、ジオオターミナルでの継続販売と平成32年度にオープンする道の駅での販売を目指す。 ○「勝山水菜と地場の野菜の手づくり餃子」 市内事業所が、市の特産品である勝山水菜と地場野菜を使用した「手作り冷凍餃子」を開発し、餃子のタレとしても使用できる地元野向町特産のえごまを使用したラー油をセットとした商品である。パッケージには恐竜をモチーフにしたデザインを使用。今後、道の駅等での販売を目指す。	○平成29年度に引き続き、勝山市おもてなし商品開発等支援事業を実施し、おもてなし商品の開発を支援する。なお、開発された商品が開発のみで終了とならず、持続して販売できるよう、勝山市おもてなし商業支援コーディネーター（中小企業診断士）のアドバイス支援を実施予定。 ○平成31年度にかけて、平成32年度にオープン予定の「道の駅」で販売するテイクアウト商品の開発を支援する。勝山の自然が育んだ食材等を用い、観光客に「名物」として認知され、永く愛される商品の開発を目指す。商品を通じて多くの人達に勝山の魅力を伝え、勝山の地域振興につなげる。	●道の駅の建設箇所は好立地であり、ぜひとも市の顔となる特産品・土産物が欲しい。 ●2020年に道の駅が完成することだが、そもそもPRが不足している。どんな内容なのかがよく分からない。 ●道の駅のPRや婚活プロジェクト等の事業にクラウドファンディングを活用するのも手ではないか。資金調達だけでなく、テストマーケティングや認知度向上にもつなげる。 ●土産物を開発することはもちろん必要だが、それを販売するためには量を確保する必要がある。ただし、現状では市内に対応できる事業所は少ないのではないかと。
6	農業における収益性と魅力の向上	農業政策課	エゴマを勝山市の特産品とするため、平成29年度より勝山市特産作物生産拡大出荷奨励事業を新たに創設し、エゴマの栽培に取り組む生産者の出荷に対して補助金を交付した。 H29出荷量：1,449.8kg（補助対象者数：28件） ※ H28出荷量：1322.5kg	平成32年度に勝山市の「道の駅」が供用開始となることを見据え、勝山市の既存特産作物の生産拡大と新たな農作物等の特産化が喫緊の課題となっている。そのため、「道の駅」への提供商品に特化した新たな補助メニューの構築を検討する。 これにより、農業者をはじめとした事業者の収入増加を支援したい。	●JAの取組みとして、勝山産のキク・勝山水菜・若猪野メロン・里芋ほか少量品目など、現在生産する農作物の増産に力を注いでいきたい。 ●道の駅では豊富な種類の農産物が必要である。さらに、一年を通して種類や数量を確保することも必須である。
7	金融機関と連携した地元企業の支援	商工振興課	○中小企業の経営の安定と振興のため、次の支援を実施。 中小企業振興対策資金 24件 115,380,000円 小規模企業振興対策資金 6件 17,500,000円 新規開業資金 2件 18,000,000円 ○「小規模事業者キャッシュレス決済推進事業」の実施。 増加する県外や外国人観光客の消費喚起を図るため、飲食料点小売店頭でのクレジットカード及び電子マネーの決済端末機の整備を支援。（平成29年度補助金申請者数：4件）	○中小企業への融資については、ここ数年、融資実績が落ちてきている。金融機関への聞き取りや、担当者会議（予定）を実施し、要因の分析を徹底する。また、必要に応じ見直しを行い、中小企業者等が使いやすい制度とし、商工の振興につなげる。 ○小規模事業者キャッシュレス決済推進事業については、平成31年度において、QRコード決済も補助対象とする予定。金融機関と連携し補助事業を周知し、普及に務める。	●消費税の増税に絡み、全国的にキャッシュレス化を進めていかざるをえない状況であり、金融機関との連携など官民一体となった取組みを期待する。 ●各対策資金の投入額は分かるが、今後は具体的な効果がどうであったのかを示してほしい。 ●利子補給申請手続きの簡素化が必要ではないか。 ●勝山市は特に、キャッシュレス化に抵抗がある土地柄であると感じる。地元商店等からしっかり理解を得る必要があるが、外国人に対して、キャッシュレス化は必須であると思う。
8	市民のチャレンジを応援	ジオパーク まちづくり 課	勝山市わがまち助成事業に、市内の若者グループや地域で活動する女性グループ等より新たなチャレンジにつながる5件の申請があった。なかには、（公社）青年会議所の「かつやま魅力発見！ジオツークエスト～探せ！かつやまの宝」といった、楽しみながらジオパークの魅力を親子で楽しむことのできる新しい企画も存在し、ジオパークの新たな活用に向けた可能性が広がった。	次代を担う若者たちの潜在的な欲求に応えられるよう、各地区の若者や女性団体への周知を強化する。	●取組みの新規性はもちろん大切だが、既存のまつり（夏まつりや左義長）の魅力を一層高めるための支援も必要ではないか。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	勝山市中心市街地への入込客数 (万人)	目標値	—	27	27	30	33	40	未達成	●数値だけでなく、世代や地域等の傾向を分析することも不可欠である。 ●どんな方をターゲットとして、中心市街地の魅力を発信していくのか検討する必要もあるのではないかと。
		実績値	27	24.7	22.8	23.5				
2	新たに設置する勝山市版DMOの数 (組織)	目標値	—	—	—	—	—	1	判断時期未到来	—
		実績値	—	—	—	—				
3	勝山市における外国人延べ宿泊者数(人)	目標値	—	1,860	1,890	1,930	1,980	2,050	達成	●インバウンドの出身国や比率など傾向を分析し、ターゲットを見据えながら各事業に取り組んでほしい。
		実績値	1,840	3,499	2,689	3,721				
4	新たに開発した「かつやま逸品」の数(商品) ※H27～H31累計	目標値	—	13	14	14	15	15	達成	
		実績値	13	16	17	19				
5	鳥獣害による被害面積率(%) ※米、麦、そばの作付面積比	目標値	—	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	達成	●獣害対策における新たな技術・方法の講習会等の開催や駆除頭数の増大に向けた方策を引き続き講じていただきたい。
		実績値	1.37%	1.59%	1.88%	0.73%				
6	市内中高生および若者によるまちづくり団体への助成件数(団体) ※H27～H31累計	目標値	—	16	23	31	40	50	達成	●重要な取組みだと思う。もっと積極的な支援を行ってもよいのではないかと。
		実績値	10	18	26	31				

重点戦略3 縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	合計特殊出生率	目標値	—	—	—	—	—	1.65	判断時期未到来	—
		実績値	1.53	—	—	—	—	—		

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成29年度)	課題と対応策(平成30年度以降)	委員の意見
1	婚活情報発信等の強化	福祉・児童課	<p>福井婚活カフェホームページや市ホームページ、フリー情報誌(県外含む)、市広報を通じた宣伝に加え、市内の企業を訪問し、人事担当者等に結婚相談やイベント紹介を行った。あわせて、市のイベントに参加しやすい環境づくりにも協力いただいた。</p> <p>【H29実績】 フリー情報誌：5回掲載 企業訪問：12企業(イベント参加者あり)</p>	<p>結婚(交際)は、個人の考え方の違いやプライベートに関することであり、押しつけはできない。相談しやすい体制や男女の交流イベントに参加しやすい環境を整えることが重要であり、今後も、パワハラやセクハラにならない程度に企業への協力を得ながら、引き続き、企業に対し、従業員へのイベント紹介等を実施予定である。</p>	<p>●企画段階から当事者が参加するような仕組みづくりができるとういのではないか。</p> <p>●工夫したイベントの実施例として、企業を巻き込んだ運動会を開催してはどうか。</p> <p>●難しい面はあるが、移住・定住を強化するよりも、こちらを重視したほうがより現実的な気もする。</p> <p>●近隣市町村との連携強化を図り、相乗効果を狙ってほしい。「婚活」という冠は重いイメージがあり、参加者を制限してしまう可能性がある。あくまでも男女交流の場となるような事業名・事業内容としてほしい。</p>
2	地域行事・活動等を通じた出会いの場の創出	福祉・児童課	<p>○男女の交流イベント 3回(H28:2回) スポーツラフティングとそば打ち体験の交流会：20名 テラリウム作成と食事会の交流会：14名 県外女性と市内男性等との男女交流会：20名(ジオアリーナでのスポーツ交流、市内散策、恐竜博物館、平泉寺散策)</p> <p>○料理教室 1回 14名(H28:4回) ○イベント終了後の担当職員によるフォローアップの実施</p>	<p>県外女性と市内男性によるまちなか散策やスポーツを取り込んだイベントを実施したところ、特に県外女性からは、非常に高い評価を受け、勝山の住みやすさを理解し定住したいという人も現れた。交際に発展したカップルも生まれたことから、体験型(スポーツ含む)のイベントを取り入れたイベントを継続的に実施予定。</p>	<p>●勝山市の婚活イベントは魅力的な内容が詰まっている。実施にあたっては、まちづくり会社も積極的に活用してほしい。</p> <p>●体験型のイベントは効果的であると思う。市内企業の若者に対し、レクリエーション感覚で積極的に参加を求めてほしい。</p>
3	子育て支援の充実とPRの強化	健康長寿課	<p>○子育て世代包括支援センターを周知するため、パンフレットを作成し、保育園と連携してPRを行った。(配布数：1,000枚) ○福井勝山総合病院と連携し、新たに産婦健診を開始。(産後2週間健診：9件、1ヶ月健診：22件) ○子ども医療費については、中学校3年生までの自己負担分を完全廃止し、医療費を完全無料化。</p>	<p>○支援センターについては、妊娠期から育児期までの総合相談窓口としての周知を継続し、医療機関や保育園など関連機関との連携体制の強化を図る。特に、JCHO福井勝山総合病院との連携を徹底し、早期に支援が必要な妊産婦への支援につなげる。</p> <p>○本市は、子育て環境が充実しているながら、そういった状況があまり知られていないことから、周知活動を一層強化する。</p>	<p>●取組内容はすばらしいと思う。さらなるPRの強化が必要である。</p>
4	子育てしながら働く女性への支援	未来創造課	<p>ハローワークやふくい女性財団等の他団体と連携しながら、働いている女性や求職中の女性に向けた講座を開催するにあたり、支援するとともに市民への周知を図った。また、勝山市男女共同ネットワーク主催の講座では、チャイルドルームの設置を行い、子育て期の女性も参加しやすいような体制を整えた。</p> <p>【H29実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再就職支援セミナー開催(16名参加 うち10名が勝山市在住) ふくい女性財団主催の働く女性に向けたセミナー等を市HPに掲載(5回) チャイルドルームの設置を支援(2回) 	<p>○他団体と連携を行う中で、毎年、再就職支援セミナーを勝山市において開催することができている。参加者数は定員の半数程度であり、より多くの対象者に参加を促すためにPRを行っていく。</p> <p>○チャイルドルームについては、2回のうち1回のみ利用があった。チャイルドルームの設置は継続しながら、子育て期の男女が参加しやすいような日時・内容での講座を開催する。</p>	<p>●これだけ子育て支援が充実しているならば、もう一歩進めて、例えば赤ちゃんがいても食事を楽しむことのできる環境づくりなどハード・ソフトの両面からまちづくりを進めると観光誘客の面からもよいのではないか。</p> <p>●子育て支援策は充実しており、出産可能な病院の確保にぜひとも取り組んでほしい。</p>
5	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	<p>○地域医療に関する講演会を実施し、かかりつけ医の推進と二次医療圏の存続の必要性を周知した。(計5回：342人)なお、講演会参加者に地域医療に関するアンケートを実施し、回答者の84%が市内にかかりつけ医を持っていることが分かった。</p> <p>○医療・福祉の人材確保は喫緊の課題であり、その対策として医療福祉人材緊急確保奨励金事業を開始した。(医療：1件 介護：4件)</p>	<p>○かかりつけ医の推進や医療の現状については、今後一層、市民に広く周知する必要がある。社会福祉協議会など地区の各種団体や保健・福祉・介護分野と連携を密にし、より多くの市民を巻き込んだ取組みを新たに実施するなど普及啓発の充実を図る。</p> <p>○医療福祉人材緊急確保奨励金事業は、人材確保だけでなく、U・Iターン施策としても効果を発揮することから、医療・福祉機関と情報共有・連携するなかで、計画的に交付していく。</p>	<p>●健康寿命の延伸に向けては、個人による意識改革が重要であり、充実した人生を送るため医療体制の課題等を市民一丸となって共有すべきである。</p>

6	特色ある教育の推進と情報発信の強化	学校教育課	環境教育やふるさと教育を柱としたESDを全小中学校で推進をしたことに加え、取組みの一部を各町（文化祭等）や各校の行事の際に発表した。地域行事への参加率や地域への愛着心の調査結果においては、高い水準を維持しており、いずれも国・県の数値を上回っている。	授業の中に取り入れていくための準備が大事である。活動促進のために、町内のまちづくり団体や公民館といった関係機関とタイアップした事業を増やすなど、連携を一層深めたい。	●少子化の進捗中、グローバルな人材の育成等に向けて、きめ細やかで特色ある授業内容の構築に期待する。 ●勝山市の魅力を印象的に伝えることのできる、郷土愛に燃える語りべをより多く発掘することも必要だろう。
---	-------------------	-------	--	--	---

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	市への結婚相談件数(件) ※H27～H31累計	目標値	—	100	200	300	400	500	達成	●相談件数の増加要因の調査と分析結果の活用を。 ●男女別の傾向や相談内容の分析をきちんと行ってほしい。
		実績値	88	170	330	494				
2	市が支援したカップルの婚姻数(組) ※H27～H31累計	目標値	—	5	10	16	23	30	未達成	●支援以前の課題があるように思われる。若年者の定住が最重要課題である。 ●このペースでは厳しい。がんばりどころである。 ●数は少ないながらも、成婚の実績があったことは評価できる。
		実績値	5	5	6	8				
3	市内保育園の待機児童数(人)	目標値	—	0	0	0	0	0	達成	●逆に、児童が少なく保育所運営が難しい地区はないのか。あるのであれば、そういった地区における対応も検討を進めてほしい。
		実績値	0	0	0	0				
4	出生数に対する勝山市出産連携事業を利用した人の割合(%) ※H27～H31累計	目標値	—	42	44	46	48	50	達成	●次回からは、出産連携事業について説明・記載願いたい。
		実績値	40	35.6	50.3	46.9				
5	勝山市に住み続けたい。またはいったん離れてもまた帰ってきたいと思っている中高生の率(%)	目標値	—	—	—	—	—	65%	判断時期未到来	—
		実績値	53%	—	—	—				

重点戦略4 豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (目標値)	達成度	委員の意見
%		目標値		&(ž' *S	&ž- - S	&ž*(S	&ž' %\$	&žSS\$	未達成	
		実績値	&(ž+)(&(ž')-	&ž- +,	&(ž),)				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成29年度)	課題と対応策(平成30年度以降)	委員の意見
%			d5 !! S\$; 1R ì V	d5 !! S\$; 1R ì V	
&			((& %ž')+\$ + &		●「フレイル予防」について、高齢者の個々に性格や環境が異なる。高齢者一般向けというより、個々の高齢者に目を向けた、高齢者それぞれに適したより実行容易なメニューを提供してもらいたい。
'			(●ケアブレイクが中心となって、商工会議所や地元事業者と連携しながら、高齢者のお買い物支援(注文・宅配・集金)のシステムをなんとか構築してほしい。 ●事業には国の施策が決定的に影響していることは重々承知しているが、要介護者にしる周りの人々にしる、どの自治体においても全体のシステムが非常にわかりにくい。住民への分かりやすい説明を心がけてほしい。 ●予防医療については、メニュー間の連携が重要である。
(%\$S DF	●「わたしの時刻表」はとてもよい取組みであり、継続して取り組んでいただきたい。加えて、コンパクトシティのような考え方も今後必要になってくるのではないか。 ●既定路線だけでなく、イベントやサロン活動にあわせた、もっと柔軟な路線対応も検討してほしい。
)			& (' &	●各施設は、本当に市民が楽しむことのできる施設となっているのか。状況を絶えず注視して、対策を講じることが必要である。 ●花月楼において提供する食事について、定番のソースカツ丼やおろしそば、海鮮丼等を置いてもよいのではないか。 ●レジャー施設のまちなかへの誘致が必要ではないか。

